

差出人： [日本学術会議事務局](http://www.scj.go.jp/ja/office/)
宛先： info@rpsj.org
件名： 【SCJ】日本学術会議ニュース・メールNo.764
日付： 2021年8月27日 15:00:28

=====
** 日本学術会議ニュース・メール ** No.764* 2021/8/27
=====

■-----
【開催案内】 公開シンポジウム
「コロナ禍における社会の分断：ジェンダー格差に着目して」
-----■

【日時】 2021年9月19日(日) 13:30~17:00

【場所】 オンライン

【主催】 日本学術会議社会学委員会ジェンダー研究分科会、経済学委員会、
政治学委員会、社会学委員会・経済学委員会合同包摂的社会政策に関
する多角的検討分科会

【共催】 なし

【後援】 東京大学現代日本研究センター

【参加費】 無料

【定員】 3,000名

【開催趣旨】

コロナ禍は、全地球を巻き込んだ社会リスクである。ただ、個人が実際に
受けるリスクの中身や程度は、ジェンダー、年齢、国籍・人種といった属性に
よって大きく異なる。日本においては特にジェンダー格差が大きいこともあり、
女性や女の子たちへの影響が深刻であるとみなすべきデータがある。すなわち
コロナ禍は、これまで長きにわたって存在したジェンダー格差を露呈させた。
これについて、学術として何が出来るか、何をなすべきかを議論する場として
本シンポジウムを企画した。具体的には、これまで解決、解消されてこなかつ
た日本の深刻なジェンダー格差について、コロナ禍の現在でこそ原因と解決の
糸口までを視野にいれ、検討を試みる。

いま世界が直面する危機的状況にあつて、学術に何が出来るのか、学術とし
て何をなすべきなのか。経済学、社会学、政治学等の社会科学の観点から、学
術における政策議論の意味を探りたい。ここで特に強調したいポイントは、政
策立案に直結する研究のみならず、学術としての実証研究、実験研究の蓄積が
あつてこそ、効果やインパクトがえられる政策に結びつくという、学術の総合
的な役割である。複数の専門分野から、実証データも取り入れながら多角的な
議論を展開していく。

【次第】 <http://www.scj.go.jp/ja/event/2021/314-s-0919.html>

【事前申し込み】 要

https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_tFRggedDShGtwMPtxadRfA

【問合せ先】

東京大学現代日本研究センター事務局

E-mail: [contact\(a\)tcjs.u-tokyo.ac.jp](mailto:contact(a)tcjs.u-tokyo.ac.jp) ※(a)を@にしてお送りください。

学術情報誌『学術の動向』最新号はこちらから

<http://jssf86.org/works1.html>

=====
日本学術会議ニュースメールは転載は自由ですので、関係団体の学術誌等へ
の転載や関係団体の構成員への転送等をしていただき、より多くの方にお読み
いただけるようにお取り計らいください。

過去のメールニュースは、日本学術会議ホームページに掲載しております。

<http://www.scj.go.jp/ja/other/news/index.html>

【本メールに関するお問い合わせ】

本メールは、配信専用のアドレスで配信されており返信できません。

本メールに関するお問い合わせは、下記のURLに連絡先の記載がありますの

で、そちらからお願いいたします。

発行：日本学術会議事務局 <http://www.scj.go.jp/>
〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34